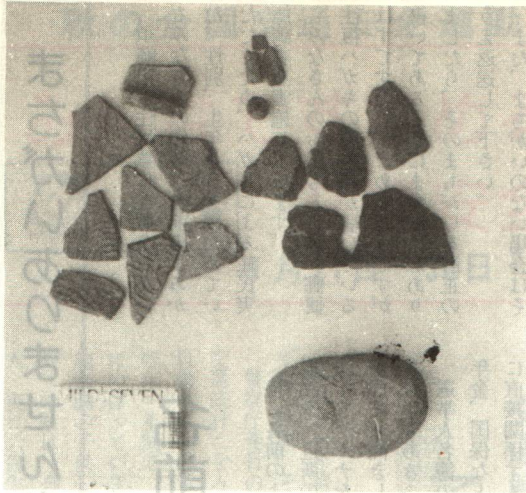


県下唯一の島遺跡

「戸島遺跡」と命名

海部郷とも関連か

戸島で弥生一室町の  
土器片など約50点採集



見つかった土器片やたたき石

先頃、南地区の戸島で、古い土器片や弥生時代のものとみられる「たたき石」が発見され、県に発見届が送られていました。

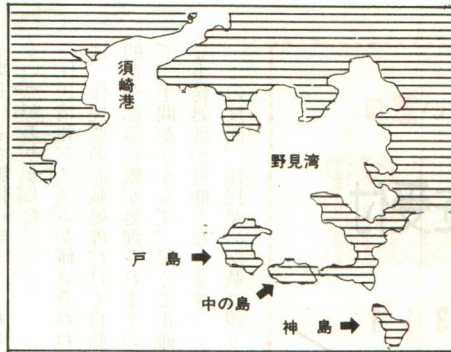
先頃、南地区の戸島で、古い土器片や弥生時代のものとみられる「たたき石」が発見され、県に発見届が送られていました。

八月二十一日、この届に対する確認のため、県文化財保護委員の岡本健児高知女子大教授、県教委

市教委などの一行十人が参加して、現地調査が行われました。

地元には、

白鳳地震（六八四年）で戸島千軒水没の伝説もあり、昔は海低に井戸のようなものが見られたといわれます。古い時代から、集落のありかめ、などの須恵器を主に、弥生



つたことが想像されています。

戸島は、野見湾を太平洋と分ける半島の先端と並ぶように位置する島の一つで、住家はわずか五戸、周囲約一・六kmの小さな島です。土器片などが発見されたのは、住家の横にある提防沿の畑で、たてよこ七〇m四方の約五〇〇㎡の中です。

この日の調査では、奈良時代から平安時代前期にかけてのつぼ、かめ、などの須恵器を主に、弥生



調査する岡本教授ら

末期（紀元二〇〇〜三〇〇年頃）の土器片、室町時代の古備前焼や網のおもりに使用した土錐なども見つかりました。確認された畑一帯の遺跡は、「戸島遺跡」と命名され、県の遺跡台帳に登録されることになった。戸島遺跡は、表土約七〇cm程度を除いて発掘すれば遺構（住居跡）の見つかる可能性もあり、市教委では、「発掘は将来の課題にしたい」と話しています。

須崎市の文化財

◆須崎市大間本町13-21  
◆電話 2-1444番